

○ 7月6日(土)

「土曜日を活用した事業」視察(南丹市立富本小学校)

○ 安藤 委員



南丹市立富本小学校で、土曜日を活用した「ものづくり体験活動」を拝見いたしました。

紙工作や手芸、木工など4つのコーナーから自分の作りたいものを選び、紙を切ったり折ったり、木を削ったり、両手と頭を使って、時間いっぱいものづくりを楽しんでいる姿がとても印象的でした。どのコーナーも根気のいる作業でしたが、作品の見本や自分の思い描いた形に近づけるよう、高学年の作業をお手本にしたり、友達同士で教えあったり、何度も失敗や工夫を重ね、学年を超えて関わりあう姿は本当に楽しそうで微笑ましく思いました。

また、講師役の地域の方々には、複雑な手順に悩む低学年を気にかけて、角材の加工で難しいことに挑戦する子どもを見守ったりしながら、どの子どもに対しても、温かい声掛けをする場面が各所に見られ、子どもたちから頼れる存在としての活動の場所、活躍できる場所になっていることも感じることができました。企画から材料の用意まで、時間と手間がかかる取組ですが、若手教員の頑張りや、地域の人々の連携がうまく機能しており、深く学校と子どもに関わっていただいているのがとても嬉しく感じました。

私も木工コーナーでヒノキのスプーンを子どもたちと一緒に作りながら、どんな形にしようか、出来上がったらどんな料理を食べようかなど考えたり、子どもたちの豊かな創造力やアイデアに驚かされたり、子どもたちとの会話から学校や家庭での生活を垣間見ることもでき、一緒にものづくりをすることで、子どもたちの楽しさが伝わってくるような活動を体験することができたと感じています。出来上がった作品を発表する場では、苦勞したことや、気に入っているところなど作品作りの貴重な体験を話すたくさんの笑顔が見られました。

他にも校長先生からは、年間を通して、土曜日を活用したスポーツ体験や文化体験、また季節に応じたものづくり等、学校と地域が深く結びついた取り組みをたくさん見せていただきました。校長先生の明るく元気な声が、子どもたちに直接届く距離にあること、また、こうした取組の一つ一つを校内の掲示物にも盛り込む工夫もあり、たくさんの大人に囲まれたとても温かい活動がこの学校の子どもの笑顔の源であると感じました。27年度には小学校の再編が行われますが、今後も子どもたちの豊かな経験をはぐくむ機会として、たくさんの保護者にも参加して頂きながら、様々な体験活動の継続・充実を図って欲しいと願っています。